

**キリストは報いと刑罰と共に来て、ともし火は暗い所に輝き、
キリストは明けの明星として彼の勝利者たちにひそかに現れる**

聖書：啓 22:12, 16. II ペテロ 1:19

- I. 「見よ、わたしはすぐに来る。わたしの報いはわたしと共にあり、それぞれの働きにしたがって与える」——啓 22:12：
- A. 主は彼の警告、「わたしはすぐに来る」を繰り返しています(3:11, 22:7)。それは、わたしたちが彼の再来の時に与えられる彼の報いを、よくよく考えるためです。
 - B. 主の来臨の時に、この報いは信者たちそれぞれに、彼らが携え上げられた後、キリストの裁きの座で与えられます——II コリント 5:10, I コリント 4:5, ローマ 14:10, マタイ 16:27。
 - C. 啓示録第 22 章 12 節で「報い」と訳されたギリシャ語は、「賃金」を意味します。
 - D. 主イエスが再来して王国を所有する時、彼は彼に属するすべての者たちに報いか刑罰を与えます：
 - 1. ある人たちは、彼の刑罰を受けます。なぜなら、「わたしの報いはわたしと共にあり」という主の言葉は、報いだけでなく刑罰もあることを暗示しているからです。
 - 2. これに沿って、啓示録第 22 章 7 節で主は言い表しました、「わたしはすぐに来る。この巻物の予言の言を守る者は幸いである」。
 - 3. 啓示録の予言の言を守る者は幸いです。なぜなら、彼は報いを受けるからです。
 - 4. かの日にわたしたちが受ける報いは、今日のわたしたちの態度と大に関係があります：
 - a. I コリント第 3 章 8 節は、わたしたちは自分の労苦にしたがって褒賞を受けると言います。
 - b. マタイ第 16 章 27 節で主イエスは、彼の再来の時、わたしたちの行ないにしたがって報いと言いました。
 - E. 永遠の救いはわたしたちの働きとは関係ありませんが、王国の報いはわたしたちが救われた後、主の命によって行なったわたしたちの働きに完全にしたがついています。
 - F. あらゆる救われた者は、キリストの裁きの座の前に現れて、善であれ悪であれ、めいめいが実際に行なった事にしたがって、体を通してなされた事柄に対して報酬を受けます。善を行なう者は褒賞を受け、悪を行なう者は刑罰を受けます——II コリント 5:10。
 - G. わたしたちは裁きの座の前に立ち、わたしたちの過去のすべての生活、歩み、振る舞いに関して主に言い開きをします。こういうわけで、使徒パウロでさえ、自分自身を審理しようとして、自分を審理される方は主であると言います——I コリント 4:3-4。
 - H. わたしたちが救われた後、どのように主のために仕え、働くかは、重要な事柄です。
 - I. パウロは言います、「もし、その土台の上に建てた人の働きが残るなら、彼は褒賞を受けます」——I コリント 3:14。
 - J. 主が再来する時、裁きがあります。その裁きにおいて、彼はわたしたちが報いか刑罰かのどちらを受けるかを決めます。
 - K. 報いはキリストの裁きの座で決定されます。「わたしたちはみな、キリストの裁きの座の前に現れなければならないからであり、それは善であれ悪であれ、めいめいが実際に行なった事にしたがって、体を通してなされた事柄に対して報酬を受けるからです」——II コリント 5:10。
- II. 「わたしたちはさらに堅くされた預言者の言を持っています。夜が明けて明けの明星があ

なたがたの心に昇るまで、その言を、暗い所に輝くともし火のように、よくよく心にとめていなさい」——Ⅱペテロ 1:19：

A. ペテロは聖書の預言の言葉を、暗い所に輝くともし火にたとえています：

1. これが示しているのは、この時代が暗い夜の中の暗い所であり(ローマ 13:12)、この世のすべての人々が暗やみの中で行動し活動しているということです。
2. 聖書の預言者の言葉は、信者たちに対して輝くともし火のように、彼らの暗やみの中で輝く霊的な光を伝達し(知的理解のための文字の知識だけではなく)、彼らを導いて真昼へと入らせ、さらには暗い夜を経過させて、主の現れの夜明けの日に至らせます。
3. 太陽の光としての主が出現する前、わたしたちは光としてのこの言葉に、わたしたちの歩みを照らしていただく必要があります。

B. 「夜が明けて」(Ⅱペテロ 1:19)は、輝く日が明けるように、光に満ちた来たるべき時を例証する比喻です。明けの明星は、その夜明けの前に信者たちの心に昇ります。これらの信者たちは、聖書の預言の輝く言葉を心にとめることによって、明るくされ照らされている者たちです：

1. 背教の時、信者たちは、この事柄において、預言者の言葉がともし火のように背教の暗さを貫き輝いて、そのような夜明けに至ることを、よくよく心にとめています。
2. このことは彼らを促し励まして、熱心に主の臨在を追い求めさせ、目を覚まさせ、その結果、主が盗人のように来られる時、彼らは主の到来(パルシーア)の秘密の部分において、主を見逃すことがないでしょう。
3. この比喻は来たるべき時代、王国の時代のことを言っているに違いなく、それは、主が義の太陽として(マラキ 4:2)出現(来臨)する時に(Ⅱペテロ 1:16)明ける日のようであり、彼の光はこの時代の暗い夜の闇を突き破って輝き出ます。
4. これに先立ち、主は夜の最も暗い時に、目を覚まして主の愛すべき出現を待ち望んできた者たちに(Ⅱテモテ 4:8)、明けの明星として出現します(啓 2:28、22:16)。
5. 彼らは預言者の言葉の輝きによって照らされており、それは夜が明けるまで彼らを導くことができます。
6. わたしたちが、暗い所でともし火のように輝く聖書の言葉を心にとめているなら、主の実際の出現の前に、今日の背教の暗やみに輝く明けの明星として、主がわたしたちの心に昇るでしょう。

Ⅲ. 「わたしはダビデの根また子孫であり、輝く明けの明星である」——啓 22:16 後半：

- A. キリストは天の発光体、光によって表徴されており、輝く明けの明星です——16 節後半。
- B. キリストは彼の再来の時、一般的には、彼の民に対して昇る太陽となりますが(マラキ 4:2)、特別に、目を覚まして彼を愛する者たちには明けの明星となります。
- C. 後者は勝利者に対する褒賞です。「わたしは……明けの明星を与える」——啓 2:28。
- D. キリストがダビデの根また子孫であることは、イスラエルと王国と関係があります。キリストが輝く明けの明星であることは、召会と携え上げと関係があります。
- E. 明けの明星は、夜明け前の最も暗い時に現れます。
- F. 大患難はこの最も暗い時となり、その後、王国の日が明けます。これが示しているのは、キリストは、この時代が閉じる前の最も暗い時に、輝く明けの明星として現れるということです。
- G. 王国で、主は彼の民に太陽として公に現れますが、大患難の前には明けの明星として、彼の勝利者にひそかに現れ、彼らを携え上げます。
- H. 輝く明けの明星は、目を覚ましている者たちだけに現れます。

- I. 眠っている信者たちは、明けの明星を見ることがなく、一般的に太陽としてのキリストだけを見ます。
- J. 目を覚ましている者たちは、主が長く離れていた後に再来するとき、優先的に彼の臨在の新鮮さを味わいます。
- K. 全聖書は、主の来臨に対する願いが祈りとして表明されて終わっています。
- L. 啓示録第 22 章 20 節におけるヨハネの祈りは、聖書の中の最後の祈りです。
- M. 「これらの事を証しする方が言われる、『しかり、わたしはすぐに来る』。アーメン。主イエスよ、来たりませ！」——啓 22:20。